

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 2 日現在

機関番号：32517

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520507

研究課題名(和文) 程度修飾とアスペクト現象についてのスケール意味論的研究

研究課題名(英文) A Research on Scalar Semantics of Degree Modification and Verbal Aspect

研究代表者

北原 博雄 (KITAHARA, Hiroo)

聖徳大学・文学部・准教授

研究者番号：00337776

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は以下の3点である。まず、状態の程度を修飾する程度副詞を対象とし、それらを量的な側面の修飾もするかどうか、修飾される句のスケール構造はどのようなものであるかという2点に基づいて分類した。次に、「みかんを{3つ/1kg}食べた」の「3つ」や「1kg」のように、副詞も現れうる位置にあり、かつ、先行詞をとる数詞数量詞である連用数量詞のアスペクト限定のしかたを明らかにした。最後に、量修飾の性質について明らかにするために、数詞数量詞の性質を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on degree modification and verbal aspect, especially telicity. First, it classifies degree adverbials identifying degree of state based on their possibility of quantity modification and the scalar structure of their modifiees. Secondly, I discuss the way how adverbial numeral quantifiers delimit the events described by dynamic predicates. Finally, I propose the nature of numeral quantifiers in order to account for quantity modification.

研究分野：日本語学

キーワード：程度修飾 アスペクト (非)限界性 (非)段階性 状態 量

1. 研究開始当初の背景

1990年代後半から、限定性(boundedness)とでも言うべき概念によって、形容詞と動詞を統一的に分析するスケール意味論(scalar semantics)と呼べる考え方が出てきた。従来、動詞の限定性は限界性(telicity)という用語で、形容詞の限定性は段階性(gradability)という用語で説明されてきた。そして、名詞の限定性が、項と動詞から成る動詞句の限界性と平行的に扱えることも早くから明らかにされている。スケール意味論は、これら3つの限定性を1つの意味論で形式化しようとするものである。

本研究の研究代表者も、2009年に発表した論文および科研費の研究報告書の中で、形容詞由来動詞(例えば「温まる」)の限界性は、動詞のルートである形容詞(例えば「温(かい)」)の段階性から(ある程度)予測できること、そして、後置詞句の段階性も、程度修飾の可能性から、「駅に着く」の「駅に」のような着点句は非段階的であり、「駅の方に走る」の「駅の方に」のような方向句は段階的であることなどを明らかにしている。

2. 研究の目的

本研究では、外国語のデータおよびそれらに対する先行研究も採り入れながら、次に挙げる(1)と(2)について明らかにすることを当初の目的とした。

(1) 程度副詞の体系的分類、および、それに基づいた程度副詞の用法の解明

被修飾句のスケール構造に基づいた、程度副詞の分類

「かなり」や「随分」のように、程度修飾(例えば「{かなり/随分}美しい」)だけでなく、量修飾もできる(例えば「{かなり/随分}食べた」)程度副詞について、以下に挙げる3つの用法の解明。

- 1) 「かなり走った」の「かなり」は走った時間や距離や回数を表す。この例のように、程度副詞が量修飾する場合、その量の種類が何かが唯一的に決まらないのはなぜか。
- 2) 「かなり走った」は、「かなり{長く/たくさん}走った」と解釈されるが、「かなり{短く/少し}走った」とは解釈されないのはなぜか。そして、「かなりたくさん走った」は適格だが、「かなり少し走った」が不適格であるのはなぜか。
- 3) 「かなり{学者だ/学者になった}」は不自然だが、「かなり学者になってきた」は自然であるのはなぜか。「完全に大きい」の「完全に」は、「大きい」の程度を修飾する解釈はできないが、話し手が「大きい」と確信している度合いを表している」と解釈することは

できる。このメカニズムはどう説明されるか。

(2) 語彙概念構造、あるいは、統語構造の中に設定されるルート(root)のスケール構造と、動詞(句)の限界性との相関性についての研究

本研究は意味論の研究である。意味的な性質を形式的に記述するのに必要な意味表示として、本研究では次のような語彙概念構造の表示を用いる。

(1) [y BE AT-z]

(2) [y BECOME [BE AT-z]]

(1)と(2)のAT-zをルートと呼ぶ。

(1)は、形容詞や状態動詞、名詞の意味表示であり、「yがzである」「yがzに存在する」などと読む。AT-zが形容詞的なルートの「温」であれば「yが温かい」と読み、AT-zのzが名詞の「大学」であれば「yが大学にいる」や「yが大学である」と読む。

(2)は、自動詞の変化動詞の意味表示であり、「yがz(に存在するよう)になる」と読む。AT-zが「温」であれば「yが温まる」と読み、AT-zのzが「大学」であれば「yが大学に{行く/来る/着く}」などと読む。

本研究では、変理事象の瞬時性と継続性の違い、および、変化動詞の限界性が、ルートのスケール構造から説明できることを明らかにする。例えば直観的に、「割れる」は瞬時的な変化を表し、「広がる」は継続的な変化を表すと解釈されるが、その理由を、変化動詞の語彙概念構造のルートのスケール構造から説明する。

本研究は、形容詞(句)、動詞(句)、名詞(句)、後置詞(句)/前置詞(句)の限定性をスケール意味論によって範疇横断的に記述することを目的とする。本研究は、(単)語と言われている単位の意味が、どれほど小さい意味論的(、統語論的)単位にまで分解できるかということの試みでもある。

3. 研究の方法

スケール意味論による研究は、英語をはじめとする外国語で行われているため、海外での研究成果を参考にしている。所属研究機関には、本研究を遂行するのに必要な研究資料がほとんどないため、研究資料を収集するために、東北大学や筑波大学などに出張したり、図書館のレファレンス・コーナーで論文を取り寄せたりした。

分析は対象となるデータがなければ行えない。外国語のデータはもちろん、現代日本語のデータも、内観による例文作成には限界があるので、市販のコーパス・データや、新聞社や国立国語研究所が提供している検索データを利用した。

4. 研究成果

本研究の成果は、程度副詞の分類と、数詞数量詞の性質の解明の2点である。以下、この順に述べる。

(1) 程度副詞の分類

「{とても/かなり}大きい」や「{ほぼ/完全に}同じだ」などのように、被修飾句が表す状態の程度的側面を修飾する副詞を程度副詞だと定義する。

程度副詞は、量的な側面も修飾する程度/量副詞と、状態の程度しか修飾することができない状態程度副詞に二分されることが知られている。両者の用法を観察することにより、以下の3点を明らかにした。

- 1) 状態程度修飾は述語修飾だけだが、量修飾は名詞句修飾も可能である。
- 2) 程度/量副詞は状態程度副詞よりも被修飾句の種類が多いこと、そしてどのような被修飾句があるかを明らかにした。
- 3) 比較構文「XはYより(も)述語」に入るかどうかという点から言うと、常に比較構文に入る、すなわち、比較構文にしか現れない程度副詞は「もっと」、「ずっと」、「はるかに」くらいしかない。これらは、量修飾もする点で、比較構文専用の程度/量副詞である。次にそれ以外の程度/量副詞は、比較構文中では状態程度修飾はできるが量修飾はできないなどといった制限がある。一方、量修飾をしない状態程度副詞は比較構文に(基本的には)入らない。

被修飾句のスケール構造に基づく程度副詞の分類

上記の分類と併せると以下のような分類が可能となる。

1) 量修飾用法のない状態程度副詞の被修飾句は開放スケール(open scale)を持つ。

2) 程度/量副詞以外で量修飾が可能な程度副詞「ほぼ」や「ほとんど」のような極点近接副詞と、「完全に」、「全く」のような極点副詞は閉鎖スケール(closed scale)を持つ句を修飾する。程度/量副詞は、開放スケールを持つ句を修飾するのが基本だが、閉鎖スケールを持つ句も量修飾的な意味合いでなら修飾しうる。

(2) 数詞数量詞の性質の解明

(1)でも述べたように、程度修飾は、状態程度修飾と量修飾に二分され、この二分をもとに、被修飾句のスケール構造の種類が予測される。量修飾の本質を考えるにあたり、次に挙げる例文(i)の「3冊」のように、数詞(「3」)と助数詞(「冊」)から成る数詞数量詞で、副詞が現れうる位置にあるもの - 以下、連用数量詞と言う - について考えた。

- (i) a. 図書館で本を3冊読んだ。
- b. 本を図書館で3冊読んだ。

(i)の「本」のように、数量詞によって数量が表される名詞を先行詞と言う。

程度/量副詞は、被修飾句の文法範疇が多様だが、連用数量詞もそうである。

- (ii) {かなり/2m} 大きい / 右に / 離れて / 走った / ...

程度/量副詞と連用数量詞は、量的側面を修飾するという共通点だけでなく、多様な被修飾句の種類についても似ている。数量詞を、程度を表すものとして程度副詞と一括する研究もある。本研究が明らかにした数詞数量詞の性質をまとめると、以下の2点になる。

先行研究 - 前期研究 - の批判的検討
連用数量詞構文の研究は、1960年代後半に始まり、1990年辺りを境に大きく2つ

に分けられる。1990年までを前期研究と言ひ、それ以後を後期研究と言うことにする。前期研究では、(ia)のような連用数量詞構文の成立条件を求めるのが大きな目標の1つであった。(ib)のように連用数量詞が先行詞に直接後続しない例は、ほとんど対象にされることはなかった。まずは、前期研究をまとめるとともにその問題点を考え、(ia)の位置にある連用数量詞の認可条件についてまとめた。先行詞をとる連用数量詞の分類

数詞数量詞は、対象を個別的、離散的に計量する個体数量詞と、そのような計量をしない内容数量詞に二分される。例えば、次に挙げる(iia)の「5つ」は個体数量詞であり、(iib)の「5kg」は内容数量詞である。

(ii) a. みかんを5つ買った。

b. みかんを5kg買った。

1)連用数量詞の個体数量詞の分類

連用数量詞の個体数量詞は二分される。1つは、(iia)の「5つ」のように、先行詞の指示対象を1つずつ個別的、離散的に計量する数詞数量詞である。また1つは、「みかんを5袋買った」の「5袋」のような数量詞である。この文は、「みかん」をいくつか集めて袋詰めにした、その袋を1袋ずつ、個別的、離散的に計量することによって「みかん」の量を表している。

2)連用数量詞の内容数量詞の分類

連用数量詞の内容数量詞は3分類される。

1. 先行詞の指示対象を一括して計量する数量詞。例えば(iib)の「5kg」は、買った「みかん」を一括計量している。
2. 先行詞の指示対象の成員数を表す数量詞。例えば「蔵書が5冊盗まれた」の「5冊」は、「蔵書」そのものの

数ではなく、「蔵書」を構成する冊数の一部の数を表す。

3. 「気温が2 上がった」のように、先行詞指示する尺度の値の変化を表す数量詞。

以上の分類について、先行詞の性質、助数詞の性質に基づいて詳細に論じた。

- 3)研究代表者のこれまでの研究で、動的な動詞と共起する連用数量詞の先行詞は、個体数量詞の場合は外項(主格句)と内項(対格句)が可能だが、内容数量詞の場合は内項のみ可能であることがわかってい。この違いは、動的な動詞を修飾する内容数量詞はアスペクト限定(delimit)するのが基本であるが、個体数量詞はそうでなくてもいいと説明される。この説明から、外項を先行詞としてとる連用数量詞の個体数量詞はアスペクト限定するものではないこと、そして、連用数量詞の中で真に副詞として機能しているもの (ib)のように先行詞の直後以外の位置にも現れうる連用数量詞 だけがアスペクト限定することも明らかにした。

の2)と3)については、近日中に学術論文として公刊し、執筆中の著書の中でも発表する予定である。なお、数詞数量詞について得られた研究成果を、程度/量副詞と比較することが課題として残っている。

本研究は、日本語の程度修飾を一般言語学の中に位置付けようとしただけでなく、程度副詞が量修飾という機能を持つかどうかで、比較構文に入るかどうかや、閉鎖スケールをもつ句を修飾できるかどうかが決まるといふ、日本語独自の特徴もあぶり出せたと信ずる。今後は、年度内にほとんど手をつけられなかった「2. 研究の目的」の について研究を進め、程度修飾とアスペクトとの相関関係を考えたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

1. 著者：北原博雄
論文標題：連用数量詞の先行詞 - 「遊離数量詞」再論に向けて -
雑誌名：聖徳大学紀要
査読：有
巻：25
発行年：2014
ページ：105 - 112

2. 著者：北原博雄
論文標題：量修飾用法の可能性と、被修飾句のスケール構造の違いに基づいた、現代日本語の程度副詞の分類
雑誌名：国語学研究
査読：有
巻：52
発行年：2013
ページ：29 - 43

6. 研究組織

(1) 研究代表者

氏名：北原 博雄 (KITAHARA, Hiroo)
聖徳大学・文学部・准教授
研究者番号：00337776